

広島県教育委員会

「遊び 学び 育つひろしまっ子！」 の実現に向けて

～広島県教育委員会乳幼児教育支援センターの取組～

はじめに

生涯にわたって主体的に学び続けるには、自ら課題を見付け、課題の解決に向けて「探究」する力を乳幼児期から育成することが重要です。「探究の芽」は、乳幼児の日々の生活の中で育まれます。乳幼児期の子供にとって、「遊び」は探究の宝庫であり、「遊び」そのものが「学び」です。

広島県教育委員会では、子供が育つ環境に関わらず、県内全ての乳幼児に、家庭や幼稚園・保育所・認定こども園等（以下「園・所等」という。）において、「遊びは学び」という理念のもと、乳幼児期に育みたい力の育成に向けた教育・保育が行われ、小学校以降の教育の基礎が培われるよう、施策の方向性と取組内容を示した『「遊び 学び 育つひろしまっ子!」推進プラン（以下「プラン」という。）を平成 29 年 2 月に策定しました。

平成 30 年 4 月には、プランに掲げる施策を総合的に推進する拠点として、行政職や指導主事に加え、園・所等での実務経験のある専門職員や心理職、幼児教育アドバイザー（以下「アドバイザー」という。）や保育ソーシャルワーカーにより構成される「乳幼児教育支援センター」（以下「センター」という。）を教育委員会内に設置し、国公私立、園・所等の施設類型に関わらず、県内全ての乳幼児の教育・保育に係る取組を進めてきました。

以下、センターのこれまでの主な取組を中心に紹介していきます。

1. 園・所等における教育・保育内容の充実

園・所等における教育・保育内容の充実に向けて、(1) 幼児教育アドバイザー訪問事業、(2) 教員・保育士等向け各種研修、(3) 保育ソーシャルワーカー派遣事業等を実施しています。

(1) 幼児教育アドバイザー訪問事業

幼児教育アドバイザー訪問事業は、県内全ての園・所等を対象に、園・所等での実務経験が豊富で幼児教育について専門的な知識を有するアドバイザーが、依頼に応じて訪問し、園・所等に寄り添いながら、教育・保育の充実に向けて支援するもので、センター設置前の平成 27 年度からアドバイザー 2 名で開始し、現在は 18 名（現役私立園長 7 名を含む。）体制で実施しています。

平成 30 年度からは、特別な支援を要する乳幼児の支援についての相談により効果的に応じるため、県立特別支援学校の教育相談主任が同行する訪問を開始したり、継続的な指導・助言により訪問効果を高めていくため、年度内に複数回の訪問を可能としたりするなど、取組を拡充しました。また、事業開始当初、公立の園・所等を中心に訪問したこともあり、私立の園・所等への訪問がなかなか伸びないという状況があったため、公益財団法人広島県私立幼稚園連盟と連携し、私立幼稚園の現役園長をアドバイザーに任命するなど、私立の園・所等が訪問を受け入れやすくなるよう環境を整えるとともに、関係団体や首長部局と連携しながら、積極的な広報活動を行っています。

令和 2 年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響により、訪問を自粛する期間が生じていますが、その間も、電

話やオンラインで相談に応じるなど、園・所等の教育・保育の充実に向けた支援を途切れさせることがないよう取り組んでいます。



アドバイザーを活用した園内研修の様子

(2) 教員・保育士等向け各種研修

研修については、法定研修のほか、園・所等のニーズや社会情勢を踏まえた様々なテーマの希望研修を実施しています。

今年度は、ファシリテーター養成のための研修、乳児保育に焦点を当てた研修、「保育の質・評価」に係る研修、子育て支援・家庭教育支援に係る研修などを実施しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度からは、オンラインを導入し、ブレイクアウトルームやチャット等の双方向でのやり取りを取り入れながら実施しています。お互いが慣れない機械操作にとまどうこともありましたが、オンライン研修になったことにより、職場内で複数人同時に受講しやすくなり、研修後にみんなで振り返ることができたなどの思わぬ声もあるなど、概ね好意的に受け止められています。

(3) 保育ソーシャルワーカー派遣事業

保育ソーシャルワーカー派遣事業は、社会福祉士等の資格を有する保育ソーシャルワーカーが、依頼に応じて園・所等を訪問し、家庭の養育状況や発達上の課題等、乳幼児やその家庭の抱える様々な困りごとを支援する園・所等の相談に応じながら、必要に応じて関係機関・専門機関へとつなぐもので、平成30年度から2市を対象にモデル実施を開始し、令和2年度からは県内全23市町を対象に7名体制で実施しています。

全県的な活動を開始したばかりですが、保育ソーシャルワーカーが助言等を行ったことで、園・所等と家庭との関係が改善され、そのことが子供へもよい影響を与えているなどの声もあり、徐々に活動に対する理解が深まっています。

2. 幼保小連携・接続の推進

園・所等における教育・保育内容の充実に加え、センターでは幼保小連携・接続の推進にも重点を置いて取り組んでおり、(1)幼保小連携担当教員を対象とした研修や、(2)市町における幼保小連携・接続の取組支援等を行っています。

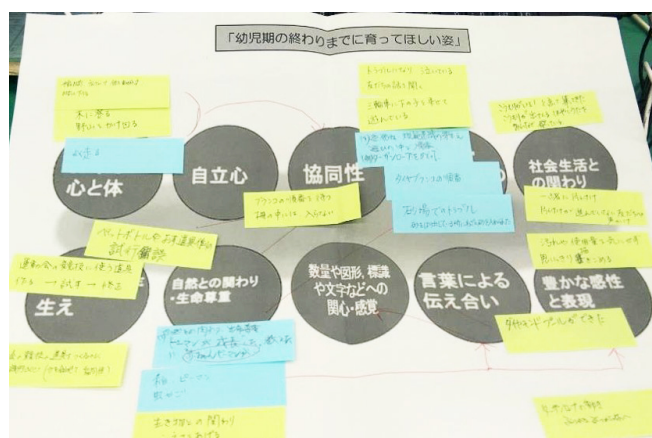
(1) 幼保小連携担当教員を対象とした研修

園・所等から小学校へと円滑な接続を図るための教育活動が実施されるよう、平成30年度から、幼保小連携担当教員を対象とし、小学校の体制整備及びスタートカリキュラム編成支援のための研修会を地域毎に実施しています。

幼児教育の基本的な考え方や、小学校教育へのつながり、スタートカリキュラム編成・実施・改善のポイントや実際の取組紹介などをテーマとする講義・協議のほか、保育参観や実践報告等を取り入れ、実践的な学びを目指しています。

(2) 市町における幼保小連携・接続の取組支援

市町における幼保小連携・接続の取組の促進に向け、市町単位での幼保小連携協議会の設置を促しているほか、依頼に応じて、研修会の講師を務めるなど、市町の取組を支援しています。



幼保小合同で、保育参観を行い、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に協議

3. 保護者の学習機会の充実

県内全ての保護者に、「遊びは学び（遊びの中に学びがある）」という本県の乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方について、共感的に理解してもらうことを目指して、(1)家庭教育に役立つ情報の提供や(2)親子の学び・集いの場の充実など、様々な取組を進めています。

(1) 家庭教育に役立つ情報の提供

これまで、あらゆる対人関係の土台となる愛着の形成に向けたスキンシップや言葉かけ、ことばの力が育つ絵本の読み聞かせ、意欲や考える力などが育つ共感的な子供との接し方の重要性などについて、4コママンガやイラストを用いて分かりやすく伝えるリーフレットを作成し、園・所等や「市町の子育て世代包括支援センター（ひろしま版ネウボラ）」等を通して配布するなど、全ての保護者に対する情報提供の取組を行ってきました。



保護者向け啓発資料
乳児(0～2歳)シリーズ イヤイヤ期編

令和2年度からは、子供の発達段階に応じて、「遊びは学び」

の考え方が保護者に共感的に理解されるよう、日常の様々な場面において学びがあることを示したリーフレットを乳児シリーズと幼児シリーズに分けて作成し、SNSやデジタル広告、母子手帳アプリなど、様々な媒体を活用して情報提供しています。



保護者向け啓発資料
幼児(3～5歳)シリーズ ごっこ遊び編

上記以外の啓発資料は、広島県教育委員会HP「親子コミひろしま」に掲載しています。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/oyakokomi/asomanaippai.html>



(2) 親子の学び・集いの場の充実

保護者が安心して自信を持って子育てができるようになるためには、子供への接し方や子育てについて学習する機会を設け、保護者として子供と関わりあう力を、保護者自らが伸ばしていく必要があります。

そのため、保護者が乳幼児と一緒に楽しみながら、身近な

場所で気軽に取り組むことができる遊びや、その遊びがどのように学びにつながるのかのヒントを提供したりすることを通じて、普段の生活の何気ない「遊び」が「学び」そのものであるということを保護者に理解してもらう「あそびのひろば」を、市町と連携し開催しています。



「あそびのひろば」の様子

また、平成20年度に県独自に開発した「『親の力』をまなびあう学習プログラム」（以下「親プロ」という。）を活用した市町等における学習機会の充実に取り組んでいます。この「親プロ」は、子育てに必要な知識や技術そのものの習得というよりも、子育ての段階に応じた身近なエピソードを基に、保護者同士が話し合う中で、親が「自ら気付き、学ぶことができる力」を高めていくことを目的としています。これまで延べ6万人以上が「親プロ」を受講しており、受講者の8割以上が「子育ての不安が軽くなった」と答えるなど、一定の成果を得ていると考えています。



「親プロ」の様子

また、今年度は、乳幼児の保護者等を対象とした家庭教育フォーラムを開催し、「遊びは学び」という県の基本的な考え方についての共感的理解及び子育てに関する自信や安心感の醸成を図る契機としました。

4. 地域による親子支援

家庭教育は、保護者が行うことが基本であることは言うまでもありませんが、家庭内だけで教育が行われるのではなく、地域との交流を通じて家庭では普段できない体験や異世代の人との交流をしながら親子ともに成長していくことが望まれます。

そのため、地域の子育てボランティア等が、身近な地域住民として保護者に対して気軽に相談に乗ったり、保護者の学びの場や家庭では普段できない体験・地域との交流の機会を提供したりするなど、親子の成長や親子と地域とのつながりづくりを行う地域人材の育成、組織化を支援しています。

具体的には、「親プロ」を進行するファシリテーターの活動が充実するよう、講座を進行する技術や資質の向上を図り、情報交流を通じてファシリテーター間のネットワークづくりを行うための研修を実施するほか、県の福祉部局とも連携し、子育て・家庭教育支援に携わるボランティア、行政担当者、園・所等の職員等を対象とした会議等を開催し、資質向上を図るとともに、異なる立場の支援者同士のつながりを作るなどして、支援活動の充実を図っています。

おわりに

平成29年2月のプラン策定から、今年度で5年を迎え、この間、社会情勢・環境の変化や、それらに伴う子育て家庭の多様性への対応等、新たな課題も出てきています。

現在、これまでの取組の成果と課題を整理した上で、社会情勢・環境の変化や有識者からの意見も踏まえ、プランの見直しを行っているところです。

今後も、「遊び」を通して、子供それぞれの心と体の発達が促され、「探究の芽」が育っている広島の子供「遊び 学び 育つひろしまっ子」の実現を目指して、首長部局、関係機関と連携することはもちろんのこと、乳幼児期の子供に関わる家庭、地域、園・所等、小学校、行政などの様々な主体が、それぞれの役割を果たしながら「オール広島県」で、乳幼児期の教育・保育の充実に取り組んでいきたいと考えています。